

第 66 回番組審議委員会議事録

1. 開催年月日 令和 5 年 10 月 25 日(水)午前 10 : 30～11 : 30

2. 開催場所 和歌山県田辺市宝来町 8-21 泉ビル 2 階

3. 委員の出席 委員総数 6 名 出席委員 3 名

出席委員の氏名 畠守彦、小倉拓、浅山誠一

欠席委員の氏名 野村悠一郎、安達克典、橘智史

放送事業者側出席者氏名 安田豊、安田正、生田奈穂、濱田由希子

欠席者氏名 泉清、洞周作、大崎健志

議題 1) 局側挨拶（現状報告）

2) 議題

☐番組聴取

10 月 6 日(金)15 : 00～15 : 54 に放送しました「弁慶まつりアワー」

と、10 月 7 日(土)13 : 00～15 : 54 に放送しました「第 35 回弁慶まつり極」のダイジェストをご聴取、ご意見・ご感想

3) その他番組への質問・意見

4) 今後の放送に対する意見・要望

5) その他

局側挨拶・報告

1. 局側挨拶

安田豊：お忙しいなか、お集りいただきありがとうございます。いつもはリモートで参加させていただいておりますが、今回は久しぶりにリアルでの参加となりました。畠さんは直接お会いするのは初めてとなります、どうぞよろしく願いいたします。先日は FM TANABE でも弁慶記の謝恩会を開催させていただきましたが、秋はいろんな行事がありまして、弁慶まつりや弁慶映画祭など、とにかく弁慶の名の付くイベントがあります。他にもいろんな行事に FM TANABE としても忙しくさせていただいております。弁慶記の各賞受賞でも弾みがついて、社員一同頑張っておりますので引き続きよろしく願いいたします。

2. 議題

～番組聴取～

生田：まずは、10月6日に放送しました「弁慶まつりアワー」の定番ダイジェストからご意見ご感想をお願いします。

安田豊：「弁慶まつりアワー」でなぜこのような番組が放送されたのですか？

生田：今回弁慶まつりで和歌山県人会の方々が 400 名という大人数でゲタ踊りに参加されるということが大きなトピックスとして挙げられていましたので、和歌山県人会の方々にお話を伺うという企画を番組の中に盛り込みましてインタビューさせていただき部分を抜粋して今回聴取いただいたかたちです。

畠：幼い時の思い出とか文化の違いなどを経験されながら、思い出しながら、あらためて日本の良さに気付かれているのがよくわかる内容だったと思います。それを通じてお祭りも盛り上がっていったらいいですね。お祭り自体も盛況だったのですかね？

生田：2 日間行われるお祭りで特に 2 日目は一日通して行われ、扇ヶ浜の前の大通りなどを歩行者天国にしてたくさんの方がゲタ踊りされますので、お祭りに参加される方もすごく多いのもありますし、屋台やステージイベントを観に来られる方も多くて、昨年が 3 年ぶりの開催だったのですが今年はより多くの人に賑わっていた印象でした。

畠：コロナ禍をあけてたくさんの方が集まるようなお祭りで盛況だったというのは良かったですね。

浅山：インタビュー自体はダイジェストになっていないですか？

生田：他にもインタビューさせていただいた方はいたのですが、谷口さんのインタビューはまるまるお聴きいただきました。

浅山：一リスナーとして谷口さんの苦勞された話とか楽しかったことを聞かれてましたけど、苦勞した話をもっと深堀りして聴いてみたかったなとこの短い時間の中で思いました。今回ゲタ踊りからの切り口ですけどまた世界大会が何年後かに開催されると思うので、特にこの方だったら清川で地元出身なので、そういうのを作っても面白いのかなと思いました。

小倉：県人会自体がけっこう大きなイベントなので、これだけで一個特集組んでも良かったのかなと思いました。もしかしたら「弁慶まつりアワー」のなかで県人会コーナーとして一つの大きな枠でしてたのかもしれないですけど、一時間できるくらいの内容はあったかなと。「弁慶まつりアワー」って番組タイトルだけど、聴取した話の内容では弁慶まつりの話題が出てこなかったのも、だったらいっそのこと県人会を全面に出した番組にしても良かったのかなと思いました。インタビュー自体は、一度打ち合わせして原稿作ってしゃべってらしたのですか？インタビュー答えられてた方が、上手に原稿読んでもるように感じたので。

生田：事前に質問リストを作らせていただいてまして、それにお答えいただいたかたちです。

安田豊：質問リストがないとなかなか答えられないですね。

小倉：引き出すために事前に聞いておくのはいいのですが、あまりカチカチにすると原稿感が出てくるというバランスの難しさがあるかなと感じました。

安田豊：アドリブ質問もまじえながらいくといいですね。

小倉：もう何十年前にブラジルに行かれてるから日本語って忘れるのかなと思ってましたが、しゃべる言葉は「でんでん」とか田辺の方言が出ていたので、中学まで居たら覚えているんだなというのが知れて面白かったです。

安田豊：どこでインタビューされたのですか。

濱田：宿泊されたみなべのホテルです。

安田豊：第二回和歌山県人会世界大会そのものが、みなべ・田辺に選ばれたのですか？

安田正：県全体で何日間か和歌山市から順番に降りてきて、田辺では弁慶まつりがある日だったのでゲタ踊りに参加されたという事です。

安田豊：谷口さんは直接ブラジルに行かれた方なので、かなりの高齢

ですよ。90 歳くらいになっているんですかね。

生田：谷口さんは 80 代の方です。

安田豊：紀伊民報にも特にブラジル移民の方のお話が順番に紹介されていたので今年は何か特別な事があるのかなと思っていましたが、和歌山県人会の世界大会がある事が関係していたのですね。田辺からブラジルやアメリカの西海岸に行った人は多いみたいです。実はわたしの祖父の弟さんも戦前から仕事を探しにアメリカ・サンフランシスコに行っていました。第二次世界大戦でキャンプに入れられて大変な思いをした方も結構いるみたいですけど。ブラジルに行った方もさっきのインタビューでもありましたが、いろんな苦勞をされてたと思うのもっと深堀りというかまたハイライトできると思いますね。

浅山：楽しかったことはほとんど無かったとおっしゃってましたね。

小倉：この方は戦後組だったでしょうけど、戦前組でしたら農地没収されたりあったみたいなので、せっかく開墾したのに…ということもあったでしょうね。

安田豊：大変だったでしょうね。日本とブラジルが親しくなったとかいろんな物語は聞きますけど、船で必死に帰ってきた人がいたり第

二次世界大戦がはじまったときは大変だったみたいですよ。そういう意味では田辺だけじゃなく周辺にもそういった方がたくさんいたんでしょう。大きなテーマにはなりますが、課題にしておきましょう。

生田：続きまして、10月7日に放送しました「第35回弁慶まつり 極」の番組につきまして。

小倉：会場の音がうるさくて声が聞こえないという事もなく且つ盛り上がっている感じもあったので、バランス良く聴きやすかったです。ゲストの方が賑やかな人たちだったので、楽しい感がすごくあって全体的に良かったと思います。

生田：今回番組のトーク中にBGMを付けるか会場の音を活かすか悩んで、会場の音を活かす選択をしたのですが、こういったご意見をいただいたことでやって良かったと思えたので大変有難いです。

小倉：めっちゃ盛り上がってるなって感じが伝わりました。

安田豊：臨場感があって良かったですよ。

小倉：あと、弁慶まつり知らない人に来てもらうっていう意味ではお昼からよりは午前中に放送して、昼から来てねと促せたらいいんでしょうけど、盛り上がってくるのが午後からなんでインタビューもしやすいんでしょうけど。来年きてねとか夕方からでも楽しめるの

で、時間帶的にもこのあたりでいいのかなとも思います。あと、食べ物があるよとかこのあと決勝あるよ、花火があるよというのは言ってるんですか。

濱田：はい、もう随所に。今おっしゃっていただいたように、16 時で番組が終了だったので、15 時台後半には花火大会のプロデュースをされた方にもインタビューさせてもらったり、ことあと番組は終わりますけど総踊りもありますし花火大会までもっともっと盛り上がっていきますよ～といった呼びかけは常にしておりました。

小倉：人によっては総踊りの決勝のメンバーとか誰が優勝したのかとかも知りたい人もいるでしょうしね。ちなみに、プロデュースされているっていうのは普通の花火とは違ったのですか？

濱田：今年は「梅酒で乾杯」条例が制定から 10 周年ということで、昨年までと違うのが梅酒を飲みながら楽しんでほしいというテイストがありまして、花火全体が 5 つのテーマにわけて作られていたのですがその最後に「梅酒で乾杯」をイメージして梅の花の形の花火をあげたりされていました。プロデュースされた方は昨年までと同じ北陸化工さんです。

小倉：テーマにそっていろいろされているのは面白い取り組みです

ね。でも花火をラジオでやろうとおもったら難しいですよ。

安田豊：難しいけど、これまで中継したことありましたよね。

濱田：そうですね。今年は、花火が打ち上げられている時間はスタジオからの番組を生放送してまして、ドーンドーンと非常に大きな音だったのでたぶんラジオに入っていたんじゃないかなと思ってます。

浅山：見えては不见いのですが、インタビューの大崎さんの視覚に訴えかけるような表現が臨場感が伝わってきたり、現地にいるような感覚を持ちながら話を聴くことが出来ました。

畠：現地の様子でいいますと浅山さんと同じ感想になるのですが、活き活きしたインタビューが臨場感とか賑わいが充分伝わってきました。花火も話もありましたが、よさこいについてはどういった事を気を付けて言葉で伝えていったのか気になったので教えてください。

生田：よさこいステージの様子を実況するという事は今回はなかったのですが、参加されているチームの方々に特設スタジオに来ていただいてインタビューをさせていただきました。

畠：踊ってる様子を伝えるのは難しいだろうと思ってたので、やってみるとしたらどんな風にされているのか気になったので。

安田豊：昨年も開催されましたが、今年の方が参加者も含めお客さん

も多かったんですよね。ゲタ踊りも歩行者天国ですごい迫力ですし、よさこいのパフォーマンスも各チームがすごく工夫されてて、さきほどのインタビューにもありましたが優勝を目指してすごく盛り上がってますよね。今年は現地に行けてなのですが、盛り上がったんだろうなという雰囲気はすごく伝わりました。今日みなさんからご指摘いただきことなども気をつけながらやっていきましょう。FM TANABE は最近外に行って中継やインタビューするケースがすごく増えて、全社員がいろんなところに取材にいつてます。生放送の時もあれば収録して後日放送する場合があります。事前の準備も含め大変ではあるのですが、聴いていただいている方もきっと喜んでいただいていると思いますし、なにより出演していただいた方が喜んでくださっていると思いますので、出来るだけ今後も増やしていきたいですね。

3.その他番組への質問・意見

特になし

4.今後の放送に対する意見・要望

畠：学校の特色化・魅力化を県からも言われているのですが、出来た

ら学校を特集していただいて学校の良さを伝えていただける機会のある番組が増えていったらいいなと思っています。

濱田：この一年くらい各小中高校の取材が増えてまして、来月からその取材を放送した内容を、学校ごととかテーマごとにまとめて毎月一回再放送する番組を企画しています。そこで、この一年振り返った時に工業高校がなかなか取材出来ていなかったのも、是非この機会によろしくをお願いします。

浅山：わたし今、学童野球でコーチをしておりまして先日決勝戦の中継をしていただいたのも子どもたちがすごく喜んでいました。ただ、全体的に試合の機会をどんどん均等にしていこうという中、戦力が偏っているので毎回決勝に出るようなチームが決まってくるんです。小学校で野球をやめてしまう子も多いのですが、子どもたちが番組に出れるって一生の宝物になると思うんです。なので、年間通して各チーム 1 回は出れるような仕組みが出来たらすごくいいのになと思っています。全試合リアルタイムの中継は難しいとは思いますが、インタビューだけでも子どもたちとその親御さんたちも喜んでくれるんじゃないかと。

生田：もし各チームの子どもたちに取材となった場合は、学童野球の

連盟にお声かけさせていただいたらよろしいですかね。

浅山：はい。今年からリーグ戦を取り入れて勝敗だけでなくポイント制にしたり、連盟も開拓しようとしているので。

安田豊：是非それは参考にさせてもらって考えていきましょう。

小倉：今いろんな事をされていると思うのでそれをどんどん拡大させていけたらいいのかなと思うのですが、対象エリアとしては田辺がメインですか。例えば、富田の中学校でやった学園祭も一般公開されていましたし、学校の授業で日置中学校で取り組んでいる「ひきよせ」という冊子を作られてたり、西牟婁地域で最近総合学習に力を入れている学校があるので、その辺りを取り上げていってもらえたらと思います。

安田豊：今のお話はその通りで、最後の決勝戦だけだと偏るなと思いますし、全チームの中継は難しいかもしれませんが何かしらのかたちで取材出来るといいですね。

安田正：本日もまた新しいご意見をいただきありがとうございます。昨年、弁慶記が終わってから次何をテーマにしようという事で、大きな括りで学校の活動を取り上げて、入ってきた情報に関しては必ず取材させていただいています。神島高校の神島塾、神島屋、田辺

高校のユーザーや熊野高校の 100 周年もありましたけど、工業高校は 4 時スク！の 番組には出ていただいているので近い関係にはいるのですが、意外に取材が出来ていませんでしたので是非今後はよろしくお願いいたします。それから、浅山さんがおっしゃってくださっていましたが、これからの子どもたちにスポットを当てようというところで、学童野球のリーグ戦が行われるのでしたら日程調整をうまくすればチームの取材を行うことは可能だと思いましたので、みんなで相談しながら進めていきたいと思います。ありがとうございました。

5.審議機関の答申または改善意見に対して採った措置及びその年月日

特になし

6.審議機関の答申または意見の概要の公表方法

内容：審議内容について公表

方法：ホームページ掲載 (<http://www.fm885.jp/>)

7.その他参考事項

特になし